Press Release　2014.04.04

教育協力 NGO ネットワークが「世界一大きな授業」を学校で実施する先生を 1000 名募集

授業参加者の声を通して途上国の教育財政支援向け ODA 予算の増額を訴えます

途上国で教育協力を行う NGO23 団体のネットワーク、教育協力 NGO ネットワーク（以下、JNNE）は、途上国の子どもたちが置かれている教育の現状を学ぶ「世界一大きな授業 2014」を学校で実施してくださる先生を 1000 名募集しています。今年は 4/21（月）から 5/18（日）の期間で実施します。

2003 年から毎年春に世界 100 カ国で実施しているこの取り組みは、JNNE のウェブサイトからダウンロードした教材を使用して、教師が各々の学校で簡単に授業を行えるようになっています。クイズなどの参加型アクティビティを通して、世界の教育の現状について知り、教育の大切さについて考えるたり、より良い世界のために活動する子どもたちがいることを知り、自分たちに何ができるか考えるきっかけとなります。参加した子どもたちの意見や感想は、ODA（政府開発援助）政策に反映されるよう、JNNE を通じて日本政府に届けられます。2013 年は全国で 684 校、5 万 9116 人が参加しました。2014 年は参加者 10 万人を目標にしています。

世界一大きな授業を受ける子どもたち（左・武蔵野東小学校、右・ナイジェリア）

世界一大きな授業参加方法

① 「世界一大きな授業 2014」のホームページ（http://www.jnne.org/gce2014/download.html）より申込みを行ってください。
② 事務局から E-mail で届く、教材・授業の手引きをダウンロードし、授業の準備をしてください。
③ 4/21（月）～5/18（日）の期間内に授業を行ってください。
④ 授業終了後に、授業参加者の意見や感想を事務局に送付してください。事務局がとりまとめ日本政府に届けます。

対象者:　小学校高学年以上
時間:　45 分～（すべて実施すると 3 時限程度になります）
想定人数:　20～40 名のクラス

報道関係者の皆様には、「世界一大きな授業」の告知、実施校のご取材をご検討いただけましたら幸いです。また、EFA グローバルモニタリングリポートをはじめ、各種資料もご用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

お申込み・ご取材に関するお問い合わせ：「世界一大きな授業」事務局（城谷）
〒154-8545　東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22-11F　プラン・ジャパン内
TEL：03-5481-0030　FAX：020-4662-2085　E-mail ：advocacy@plan-japan.org
ホームページ：www.jnne.org/gce　Facebook：www.facebook.com/jnne.gce

途上国の教育の普及の現状

日本を含む 164 カ国は、2000 年世界教育フォーラムで、2015 年までに、すべての子どもに初等教育の機会を普及させることを約束し、取り組んできました。しかし、2014 年 1 月にユネスコが発表した「万人のための教育（Education for All、以下 EFA）」グローバルモニタリングレポートは、5,700 万人の子どもたちがいまだ小学校に通えておらず、初等教育と読み書き習得の完全普及には、研修を受けた教師 160 万人が充足される必要があることを明らかにしました。また、現在のペースでは、途上国の農村に住む女の子にまで教育の機会を普及するのは、目標よりも 70 年以上後の 2086 年となることが指摘され、各国政府による取り組みの加速化を訴えています。

EFA のレポートによると、読み書きができない子どもたちは、世界の小学校学齢期の人口の 38%、2 億 5000 万人に上り、読み書きができる子どもは南・西アジア地域で子ども全体の 3 分の1、サブサハラアフリカ地域で全体の5分の2に留まっています。また、途上国の国内においても、都市と農村、経済、性別により格差が存在し、例えば、ザンビアの都会に住む富裕層の男の子は 70%が初等教育を終え、読み書きを習得しているのに対し、農村に住む貧困層の女の子ではわずか 10%に限られます。

こうした現状の背景には、子どもたちの教育を支える教師の質と待遇の問題があります。世界全体の 3 分の 1 の国で、政府が定めた研修を受けていない教師が全教員の 25%以上を占めることや、サブサハラアフリカ各国では、教員給与が一日 2ドルの貧困ライン水準に留まっている状況が課題とされています。また、都会や多数派民族の子どもが多い学校に先生が集中しがちで、遠隔地の学校に配置される先生が少ないことも、このような格差を助長しています。

日本の 2 国間 ODA（政府開発援助）は、経済インフラへの援助が多くを占め、子どもたちの読み書きなどを支える基礎教育分野へは 1.2%（2012 年度支出ベース/出展 OECD DAC2012 データベース）で、開発援助委員会加盟国の平均の約半分です。また、歴史的につながりの深いアジア諸国への配分が多く、学校に通えない子どもの半数がいるサブサハラアフリカへの配分も基礎教育支援の 3 割に留まっており、適切な配分とは言えません。

> 参加した子どもの声：
> 「国と国のけんかの戦争というくだらないことに金をつかうんではなく、きょういくひに使った方がいいと思いました」。
> （郡山ザベリオ学園小学校の児童）

教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）とは

JNNE は、全ての人々の学びの保障を目指す、教育協力に関わるNGOを中心としたネットワークです。現在 23 の NGO が加盟し、情報交換、調査研究、能力強化、政策提言および啓発・広報活動を行っています。JNNE は「世界一大きな授業」を通して、子どもたちの学習環境改善には、安定的な教員の確保が重要であり、ODA 予算において、サブサハラアフリカなどの最貧国を中心に、基礎教育分野への配分を増額するよう日本政府に訴えています。

http://www.jnne.org/index.html